AEFA
フレンド会報

認定NPO法人　アジア教育友好協会
Asian Education and Friendship Association
本部：〒105-0014 東京都港区芝 3-3-10 芝園ｵｰｼｬﾝﾋﾞﾙ8F
TEL　03(6426)0720 / FAX 03(6426)0721
Email : tokyo@nippon-aefa.org
URL : http://www.nippon-aefa.org

第9号
発行日
2010年4月20日

世界初。子ども資金による学校誕生！

設立5年目の2009年度はＡＥＦＡにとって画期的な年となりました。子どもたちの資金による学校建設が成功、また念願の「認定ＮＰＯ法人」資格を取得、さらに日本財団以外の支援が著しく拡大しました。

◆設立６年目に100校建設支援

2009年度は21校をベトナム、ラオス、タイの山岳僻村に建設しました。建物だけでなく、ＡＥＦＡの特色である地域自立支援（学校菜園、マッシュルーム栽培、鶏や豚の飼育など）もあわせて推進しました。これで設立５年間の支援校は延べ77校（277教室）、12,000人の児童が新しい教室で学んでいます。

今年度の建設は23校を予定し、設立６年目で支援校は100校となります。

《国別建設校》

	ベトナム	ラオス	タ イ	中国雲南	合 計
2005年	4	2	2	-	8
2006年	8	3	2	2	15
2007年	9	6	-	-	15
2008年	13	4	1	-	18
2009年	17	3	1	-	21
計	51	18	6	2	77

◆子どもたちが貯めたお金で学校建設

単なる募金ではなく、子どもたちが意識してお手伝いをして得たお金、アルミ缶収集やバザーなど子ども自らが作業して得たお金、あるいは“ハンガーランチ”の精神でおやつやおもちゃ等を節約したお金（ワンコイン500円）で、同じ地球で学ぶことが困難な状況の子どもたちに学びの場をプレゼントし、交流、夢を共有する・・・谷川提唱の「ワンコイン・スクール」プロジェクト。最初に共鳴された仙台市立広瀬小学校から全国のＡＥＦＡ交流校に発信されると、賛同が各校で相次ぎ、大きな輪となりました。

そして１年、ラオス南部サラワン県にポンタン小学校を建設することができました。2010年２月12日の開校式には、広瀬小学校の菊地校長先生が出席、日本の友だちからの想いを届けました。



◆拡がる支援の継続・拡大と活動評価

2009年はＡＥＦＡの独自性が評価され、日本財団以外の支援資金の継続・拡大傾向が続いた年でもありました。総額3000万円近く支援いただき、学校建設（６校）、現地フレンドシップ校への日本の先生方の視察派遣・交流授業、その現地報告としてのフォーラムを開催。日本の交流校への出前授業は総計30回を数え、地に足の着いた活動をすることができました。交流事業の充実は、ボランティアの多大なる協力に支えられています。

また、マスコミにも多数紹介され、日本の新聞に39回、現地のテレビ及び新聞に取り上げられました。外務省主催グローバル教育コンクール2009でオリジナルＤＶＤが優秀賞を受賞するなど、関連事業が４つの受賞、評価を得ました。

◆認定NPO法人、国税庁より認定

2010年２月12日に国税庁より「認定ＮＰＯ法人」として認定されました。これにより、３月１日以降の皆様からのご寄附は、寄附金控除の対象となります。

AEFAの３階建理念



ひとこと　学校を「創る」から「育てる」へ

新しい理念への挑戦、それが「育てる」という理念です。

2005年に建設開始して以来、毎年建設後の学校を訪れ、学校をフォローしてきました。村を訪れると、学校が変わり、子どもたちが成長し、村が変わっていくのが分ります。

成長度にはバラツキがあります。教師がしっかりしている学校はドンドン良くなります。学校が元気な村は、村人が元気であり、まとまりがあります。「逆また真なり」で、教師を大事にしている村は教師も良くなります。

今年からは、本格的に学校を育てる事業を立ち上げ、見守っていきたいと思います。支援者の希望や意図を反映した支援メニューを開発します。奨学金プログラム、教師育成プログラム、教科書基金・教材基金・教師基金などに挑戦したいものです。

（理事長　谷川　洋）

2009年度　21校を建設支援！

（　　）ご支援者



ナンプア小学校
（長谷川様他個人
大阪コミュニティ財団・夢の貯金箱）

ご支援をきっかけに、中学課程の新設が検討されています。また、地域学習センターとして農業技術や環境を教え、地域全体の発展を目指します。



ダクハ小学校コンピア分校
（アーク　－青い地球の子どもたち－）

段々になっている傾斜地をならし、新校舎を建設。これまでは教室不足から、午前と午後の2部制でしたが、1～5年生までの全児童が一緒に学べるようになりました。



フートューＣ小学校
（アジアの子供たちに
学校をつくる議員の会）

貧困家庭が23%を占める村。本校は４ｋｍ近く離れており、雨季は未舗装の道で通学も困難を極めます。村の中心に新しく土地を確保・整備し、低学年が安全に通える分校を建設します。



ポンタン小学校
（広瀬小・愛子小他協力校
ワンコインプロジェクト基金）

子どもが創る夢の学校～ワンコイン・スクール第１号。日本の子どもたちの想いとがんばりで建てられました。ポンタンの友だちも、植樹や校庭を整備して協力。



パチュドン中学校
（独立行政法人郵便貯金
簡易生命保険管理機構）

山岳地帯サラワン県タオイ郡で2校目となる中学校。木の下でもいいから勉強を続けたいと願う、山奥の子どもたちに中学進学の機会が拡がりました。



ナトゥム小学校
（津北ロータリークラブ）

森に囲まれた新校舎に、ナトゥム村の1～3年生児童全員と、さらに奥の村からも子どもたちが通えるようになりました。旧校舎は村人達により、幼稚園として整備されます。

● 2009 年建設校と支援者

国名	建設校	建設内容	生徒数	支援者（敬称略）
ベトナム	フートューC小学校	4教室＋教員室＋WC	126人	アジアの子供たちに学校をつくる議員の会
ベトナム	グエンティディン小第5分校	2教室＋教員室＋WC	129人	日本財団
ベトナム	ポコ小ダクモハム分校	3教室＋WC＋井戸	58人	日本財団
ベトナム	ポコ小トゥゾップ2分校	3教室＋WC	71人	日本財団
ベトナム	ポコ小トゥゾップ1分校	3教室＋WC＋井戸	73人	アーク　青い地球の子供たち・日本財団
ベトナム	ダクトカン小コンノン分校	3教室	131人	日本財団
ベトナム	ダクハ小コンピア分校	4教室＋WC＋井戸	120人	アーク　青い地球の子供たち
ベトナム	ダクトカン小テソチョン分校	3教室＋WC＋井戸	72人	日本財団
ベトナム	ダックロガ小ダックマン1分校	3教室＋WC	42人	日本財団
ベトナム	ゴックトゥ小ダクチョ本校	2教室＋1教室＋WC＋井戸	194人	日本財団
ベトナム	トゥモロン小ダッカ分校	3教室＋WC＋井戸	75人	日本財団
ベトナム	キンドン小タムアン分校	3教室＋WC	60人	日本財団
ベトナム	レバンタム小ルンレン分校	4教室＋WC	400人	日本財団
ベトナム	ホーバイマウ小第15分校	3教室＋WC	348人	日本財団
ベトナム	エアレ小第14分校	3教室＋WC	100人	日本財団
ベトナム	ビンタン小カイコオック本校	3教室＋WC	296人	日本財団
ベトナム	タンアン第1小アンティン本校	4教室＋WC	188人	日本財団
タイ	ナンプア小学校	3教室＋WC＋教室改修	81人	長谷川様他個人・大阪コミュニティ財団・夢の貯金箱
ラオス	ナトゥム小学校	3教室＋教員室＋WC+井戸	39人	津北ロータリークラブ　他
ラオス	ポンタン小学校	6教室＋教員室＋WC+井戸	206人	広瀬小・愛子小他協力校・ワンコインプロジェクト基金
ラオス	パチュドン中学校	2.5教室＋先生の家	＊165人	独立行政法人郵便貯金・簡易生命保険管理機構

＊小中

ラオス 山の学校の熱血先生　～ナムゲルン先生

ナムゲルン先生の家族は、学校の子どもたちです。
たった一人の家族だったおかあさんを亡くしてから、学校に住み込んで教員生活を送っています。先生の家は、学校です。

2005 年、ラオス南部山岳地帯タオイ郡パチュドン小学校のナムゲルン先生に出会って、ＡＥＦＡ初の建設校をこのパチュドン小学校に決めました。
当時、2 教室の小学校がＶＦＩ（ラオスにおけるパートナーＮＧＯ）によって建てられていました。先生の家は、学校の敷地の隅の小さな高床式の家です。

子どもたちの笑顔





ナムゲルン先生と家

「家の中を見ると、2 畳間くらいの空間にハンモックが 1 つぶら下がっている。このハンモックで先生が眠り、他の 2 つの部屋は子どもたちの寄宿用に解放している。部屋中にぼろ毛布や古着が雑然と置かれている。寄宿している生徒はこの小さな家に 8 人もいるとのこと。

下屋には、色んな調味料など日用品の類が置いてある。どうしたのだと聞くと、麓のサラワンから来る行商人から預かって、村人相手に販売、得たお金で子ども達の学用品や食べ物の足しにしているのだそうだ。心が揺すぶられた。ここにこのような熱血先生がいる。

子ども達のため、あらゆる努力を惜しまない先生がいる。しかも彼は、教員資格を持たないが読み書きができるためにほぼ無償で子どもたちを教えている、ボランティア先生だという。この村に新たに学校を建設すれば、この先生が皆をリードしてくれるだろうと、私は確信した。」（谷川）／ 2005.10 記

あれから 5 年。パチュドン小学校では、5 教室＋教員室の校舎で 129 人の子どもが学んでいます。貧困度が高い山岳地帯の学校としては、ドロップアウト率が 2.96%（2008-2009）と低いことも、学校の充実度を表しています。中学課程も新設され、食堂や仮小屋で学んでいた中学生のために校舎を 2009 年度に建設。現在は 14 人の生徒が学んでいます。

みんなで国旗を立てる





手製の植木鉢と額

ナムゲルン先生は、ＶＦＩのサポートで、正式な教員免許を取るためにサラワン師範学校で学び、現在はパチュドンの分校であるバチュジュン小学校で１～３生年をたった１人の教師として教えています。
2 月、ＡＥＦＡスタッフがバチュジュンを訪問したのは夕方。先生を囲んで子どもたちが国旗掲揚ポールの柵を直している最中でした。教室には、竹を割って作った額に貼られたポスター、植木ポット、生徒１人１人色分けされた出席簿や、タオイ語とラオス語をわかりやすく図入りで表記した、ナムゲルン先生手作りの教材がたくさん掲示されていました。
「これも、自分で考えて作ったんです」と、控えめながらも瞳を輝かせて１つ１つ説明してくださった先生。
そんなナムゲルン先生の得意なことは、織物～タオイ族の伝統的な手織り布です。織物は女性の仕事ですが、先生はおかあさんから織り方を習い、子どもたちに教えています。

先生得意の手織り布





手作りの教材

「いつも日本のみなさんからたくさんの支援をしてもらっているけど、自分には何もあげられるものがないから・・・」と、先生手織りの赤い布をくださいました。
織物は、Double A ～ラオスの一般的なコピー用箋～の包み紙に包まれていました。
文房具店も無い山の中。教材を作るための紙もポスターカラーも、プロジェクトの限られた予算から捻出しています。日本ではごみになってしまうコピー用箋の包み紙は、とても貴重な『ラッピングペーパー』です。
こんなに気持ちのこもった「贈り物」を、山奥の小さな分校で、村の子どもたちの将来のために教える先生の想いと共に受け取りました。

日本の子どもたちがラオスに学校を建てた！

夢と友情をありがとう

お手伝いをして１０円、我慢をして１０円、あるいはみんなで空き缶を集めて……。
子どもたちが一人５００円目標に貯めたお金で、ラオス南部サラワン県ポンタン村に、学校が建ちました。学ぶことが困難な環境の子どもたちに、ＡＥＦＡフレンドシップ校１６校の子どもたちが手を組んで「学ぶ場」をプレゼント、交流、夢を実現する「ワンコイン・スクール」が誕生しました。

ポンタン小、２月１２日開校式

ポンタン小学校は、日本の子どもたちの資金に加えて、村人のべ３００人の工事協力で完成、２月１２日開校式を迎えました。

仙台・愛子（あやし）小ＰＴＡから贈られた鯉のぼりが泳いでいる校庭で行われた開校式には、仙台・広瀬小の菊地修治校長が列席。谷川理事長とともに学校を開くキーが手渡され、サラワン郡知事から感謝の挨拶がありました。

「今回のご支援は大変素晴らしいことです。私たちはみんなで、この学校をずっと大切に使います。村人の協力で作られたこのポンタン校は、モデル校になることでしょう。本当に有り難うございました。」


菊地校長先生に県知事から感謝状

仙台・広瀬小から全国に発信、始動

『子どもたちの行動と力で』ラオスに学校を創る、ワンコイン・スクールプロジェクトは、2009年2月26日、共同発信校の仙台市立広瀬小学校から始動しました。同校は仙台一のマンモス校で、2009年4月に愛子小を新設、分離独立することからお別れ行事「思い出フェスティバル」を開催。同校の教育目標の１つが「地球人の育成」であることから、世界に目を向け教育支援を行うべくまつりの売上を寄附。

2009年度の6年生が総合の学習の中で、ラオスとの交流を通し「生きる」を学びました。東京への修学旅行ではラオス大使館を訪問。出前授業などを通し、ラオスにかかわる様々な方々との出逢いがあり、生き方に触れました。これまでの自分を振り返ると共に「自己の生き方」を考え、学びを深めることができました。

ポンタン小開校式に列席した菊地校長先生は、広瀬・愛子児童からたくさんの交流作品や贈り物を持参。



支援校名を掲げて　―　喜びのポンタン小の子どもたち

帰国後、全校児童及び愛子小児童に報告授業を行いました。

広瀬小卒業式では、卒業証書をもらう際、1年間の学びを総括、自分の生き方と照らし合わせて考えた「自己課題・解決への取組み・これからの生き方」を述べました。

日本のみなさまへ

ポンタン小5年　ティン（12歳）



これまでの学校は、かべもなくて、十分な設備がありませんでした。強い風がふくたびに、みんなで修理しないといけないような学校でした。それが、今までに見たこともないような、とってもステキな学校になって、本当にとってもうれしいです。友だちとさそいあって、毎日学校に通います。

今日はとっても素敵な日です。特別な日です。みなさんのこと、ずっと忘れません。ありがとうございました。本当にわたしたちにとって、大きな大きな贈り物です。ラオスの、私たちのような子どもたちをこれからも支援して下さることを願っています。

私は、これから勉強をがんばることを約束します。将来、自分の村や郡・県のために役立つ人間になります。そして、ずっと学校をきれいに使うことを、約束します。

最後に、みなさんの健康と幸運を、心からお祈りします。本当にありがとうございました。

武蔵村山第八小の活動、新聞、テレビで紹介

広瀬小とＡＥＦＡの共同プロジェクトの主旨にすぐ賛同して立ち上がったのが、2007年からすでにラオスと交流を行っている同校。

「ラオスに学校を造ろう、小遣い、お駄賃集めて」という動きが東京新聞に掲載されました。


武蔵村山第八小
ラオスに学校造ろう
お小遣い、お駄賃集めて寄付
NPO主人とプロジェクト
東京新聞 /2009.5.18

「ただお金を寄附するのではなく、無駄遣いをしないようにしたり、お手伝いをしたり、人に親切にしたり、汗をかいて得た10円の積み重ね。500円の重みを感じとってもらいたい。

みんなの小さな努力の積み重ねが、ポンタン小学校になります。」（小野江校長先生）

６年生１人ひとりが図工の時間にスチール缶を使って「ワンコイン缶」やポスターを手作り。ワンコイン缶をはじめ達成者への登録カードの発行、親善大使の任命などユニークなアイディア。子どもが子どもを動かす・・子どもたち自身が活動を全校生に呼びかけました。

また、各家庭での子ども達のがんばりの模様が、テレビ東京番組「すなっぷ」で放映されました。





テレビ東京「すなっぷ」 2010.3.31

智恵と工夫。さまざまな方法で拡がるプロジェクト

広瀬小、武蔵村山第八小に続いて、ワンコイン・スクールプロジェクトはＡＥＦＡ交流各校に次々と拡がっていきました。主な動きを紹介します。

◆武蔵村山第十小／八小・小野江校長先生の紹介に「子どもたちに必要な活動。とてもいい取り組みだと思った」と榊校長先生。「がんばり・がまん・思いやり」各カードを発行、親善大使が各クラスを訪問して活動紹介するなどにより、12 月発会、３か月後には早くもワンコイン目標に 200 名が達成。

◆仙台市・愛子（あやし）小／アルミ缶回収などで得たお金で「ポンタン小に文房具を贈ろう」を実施。

◆福井支部／三浦三博元平章小校長先生が中心となり、坂井市丸岡中と丸岡南中は文化祭のパネル展示でよびかけ、募金活動やバザーを実施。高椋小では、ＪＲＣ委員を軸に活動。

◆勝山市・村岡（むろこ）小／手作りの工芸品、ペーパーウェイトなどを文化祭で販売、売上金を寄附。

◆品川区・杜松小／08 年に鐘をラオス・クアンシー小に贈った同校は手作りぎんなん販売金を寄附。

◆杉並区・四宮小／山梨県忍野村での移動教室で米作りを体験、売上金をワンコイン基金に寄附。

◆町田市・小山田小／毎年手作り竹炭の売上金を、タイ・サムソップ小へ寄附。09 年度はワンコイン基金にも寄附。

◆町田市・南大谷小／手作りぎんなんの売り上げを、ワンコイン基金に寄附。

◆横浜支部／橘幼稚園卒園委員が中心になって支部が発足。各家庭の取り組みで「お手伝い・がまん・思いやり・がんばり・なんでも」各カードを作成、子どもたちの努力を記録。

◆相模原市・藤野南小／ダイコンやサツマイモを栽培し、保護者会で販売した売上金を寄附。

◆倉敷市・玉島南小／総合の時間で栽培したダイコンと、「手作りのダイコンのすいとん」を販売。

◆島根県・宇野小／夏休み「もったいない生活日記コンクール」の特別記念品の文具券を換金して寄附。

◆横浜市・二俣川小◆
伝えあおう　ラオスの知恵　日本の知恵

ラオス・カムサムバド小との交流3 年目。二小フェスティバルで、モノ作りなど4 つのグループに分かれて体験型発表を行いました。

また、09 年9 月、同校教諭等が現地を訪問し、運動会をレクチャーしました。

<二小フェスティバル>

モノ作りグループ



音楽グループ



食のグループ



衣のグループ









◆福島県矢祭町・東舘小◆
ラオスに響く校歌／唐辛子・カボチャで学校建設

ユニークなアイデアと行動力でラオス・ナトゥール小と交流する同校の活動はマスコミの注目の的。09 年9 月、現地視察訪問の際、校歌をラオス語に翻訳して持ち込んだところ、大歓迎。その模様の映像を帰国後、児童に見せるとこちらもまた感激。まさに歌は世界を結ぶ…。

また、ラオスの唐辛子・カボチャを学校菜園で育て、篤志家小平氏の協力も得てラオス料理に調理・試食し生まれた資金をワンコイン基金に寄附。



東白日報 /10.3.18



福島民友 /10.3.20



朝日 /09.7.4

～アジアの輪を拡げよう～

支援:三菱ＵＦＪ国際財団

第４回ＡＥＦＡフォーラムは、ワンコイン・スクールの進捗報告に続いて、ベトナム、ラオス北部、ラオス南部の交流校を視察された３校７名の先生方から、それぞれの視点で子どもたちに何を伝えていくか、今後の取組みについて報告していただきました。



●プログラム●

◇理事長挨拶及び活動報告
◇ワンコイン・スクールプロジェクト
・仙台市立広瀬小学校　菊地　修治校長先生
・横浜市立旭小学校4 年　鬼形　駿　君
・武蔵村山第八小学校　小野江　隆校長先生
◇現地視察・交流事例発表
～ベトナム・フートゥーＣ小を訪問して
港区立芝小学校　須川美奈子先生
長岡　季和先生
～ラオス・ナトゥール小との交流
福島県東舘小学校　小松　光恵先生
宍戸　仙助校長先生
～ラオス・カムサムバド小を訪問して
横浜市立二俣川小学校　中野　悟先生
小林　宏先生
瀬野尾　千恵校長先生
◇ＡＥＦＡ交流大賞・交流賞の発表 / 表彰
◇閉会・懇親会

●「ワンコイン・スクール」プロジェクト報告



◆広瀬小・菊地校長先生

ＡＥＦＡと「ワンコイン･スクール」の共同発起人として、愛子小学校との分離機会のイベント「思い出フェティバル」の売上を寄附。６年生の総合学習で取り組みを開始。ＡＥＦＡの出前授業、６月の東京修学旅行でラオス大使館訪問、夏休みに児童が自主的募金を行った。



◆旭小学校４年・鬼形くん

お母さんにラオスの現状を聞いて、力になりたいと活動に自主的に参加し、「がんばりカード」や「思いやりカード」で貯めたお金を理事長に贈呈。「ラオスの気候にあった、ラオスらしい学校を作ってください」と要望。４年生とは思えない落ち着いた報告に拍手が起こった。



◆武蔵村山第八小･小野江校長先生

「このプロジェクトは、子どもによる子どものための活動です。ふだんはほとんどお手伝いをしない子達が、10 円の重みを感じながら夏休みに頑張った。何より大事なのは子どもたちの国際支援が小さな力であっても自己実現が感じられることです。」

●現地視察・交流事例発表



◆芝小・須川先生 / 長岡先生

ベトナムで撮影したオリジナル映像で、子どもたちにベトナムを伝える交流授業を全学年で実践。来年度から国際交流委員を立ち上げ、新聞や全校集会などで異文化を伝える活動を行う予定。



◆東舘小・小松先生 / 宍戸校長先生

小松先生が取組みと実践を報告。宍戸校長先生は「ラオスとの交流で、子どもたちは夢と希望に目覚めた。ラオスの子どもの瞳の輝きは、不十分な環境の中で主体的に生きる生命の充足と、自己有用感ではないか。」と熱く語った。

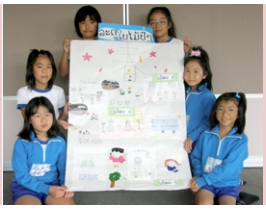


◆二俣川小･小林先生 / 中野先生
瀬野尾校長先生

「手作り」を大切に、運動会の交流を行った。子どもたち手作りのバトンは掃除用モップの柄、はちまきはミシンで手縫いし、メッセージを入れた。競技を説明する壁新聞も、頑張ってラオス語を調べて作成。山岳地帯にも行かれた小林先生は「人間が幸せなときとは、お互いが信頼しあって未来に向かって進んでいるときだと、理屈ではなく強く感じた」と強調。

《第２回ＡＥＦＡ交流賞》

フォーラム参加者の投票により、「交流大賞」に福島県矢祭町立東舘小学校、「交流賞」に横浜市立二俣川小学校が受賞しました。



なお、参加作品は 21 作品
（日本賞6 作品、ベトナム賞6 作品、ラオス賞2 作品、タイ賞4 作品、教材賞、特別賞、ワンコインスクール賞3 作品）

トピックス

◆安倍晋三会長ら、開校式列席

「アジアの子供たちに学校をつくる議員の会」ご支援のタイ・ファイコンともだち小学校」の開校式に、安倍晋三会長、遠藤利明会長代行、山谷えり子議員、横田順子チェンマイ総領事ほか一行が列席されました。今回のご支援がきっかけとなって、タイ政府の中学校建設が決まり、さらに学習環境が整いました。


祝辞をされる安倍会長

◆広瀬小、修学旅行でラオス大使館訪問

ラオスをテーマに『生きる』を学んだ、仙台市立広瀬小学校が東京修学旅行でラオス大使館を訪問。ラオスについて学びを深めました。

◆フレンドシップ校、進水式に招待

島根県宇野小、岡山県倉敷西小、柏島小が日本財団から船の進水式に招待されました。

◆遠藤さん、パナマ政府に招聘

ＡＥＦＡ前事務局長遠藤正芳さんがパナマ政府から教育及び建築の専門官として招聘されました。

◆谷川理事長、文科省で２回目の講演

谷川理事長が「在外教育施設派遣教員研修会」（主催：文部科学省）の講師に招かれ、2009 年８月 22 日講演しました。前年度に続き２回目の招聘。

◆佐藤、金子両スタッフ、船橋市教研会で講演

佐藤佳子、金子恵美両スタッフが船橋市教育研究会の国際理解部会で、＜出前授業＞の豊富な経験を生かし講演しました。（2009. 11. 18）

✲ 相次ぐ受賞 ✲

●外務省主催／グローバル教育コンクール2009･優秀賞

ＤＶＤ『チュック君の一日』が素材部門で受賞。「途上国との生活環境の違いを考えさせる素材として高く評価（審査員のコメント）」されました。

●武蔵村山市立第八小学校／『国際交流大賞』『特色ある学校づくり』

ラオス･パチュドン小学校との交流が、武蔵村山市教育委員会『国際交流大賞』を受賞。また東京都教育委員会からも＜特色ある学校づくりによる教育向上への貢献＞で表彰されました。

●橘幼稚園／手づくり絵本コンクール・佳作

神奈川県橘幼稚園 08 年卒園委員会が制作した『タバンくんのいちにち』が第１回福島県矢祭町主催「もったいない図書館」手づくり絵本コンクールで佳作。



AEFA 6 年目の課題

理事長　谷川　洋

本年３月、悲願の「認定」資格を得ました。日本全国で 35, 000 以上とも言われる NPO 法人のうち、認定資格は３月１日現在 119 団体。極めて厳しい資格審査の結果です。責任も重いと言えます。これで、AEFA に対する寄附は税金が免除されることになりました。今後は一般企業にも働きかけて資金支援を仰ぎたいと思います。

厳しい経済環境にも拘らず、2009 年度も前年比 13%増の寄附を頂き、事業規模の拡大を達成しました。皆様の温かいご支援のお陰です。心から感謝申し上げます。

AEFA は、支援資金を出すだけの一方通行の海外支援ではなく、双方向性を持った事業、日本に根っこのある事業を目指してきました。支援した結果が個別に実感できること、「お互いの顔の見える海外支援」を合言葉に頑張ってきました。

今後も、どんなに少額でも対象プロジェクトの成果が支援者に具体的に分るようなやり方を続けます。支援してくださる皆さんの気持ちやアイディアを、明確に反映し、事業の共同推進者としての実感を持てるような事業にしたいと思います。

事業開始６年目に入り、新しい挑戦が始まります。

その一つの方向性が、「学校を創る」から「学校を創り、育てる」への進化であり、日本とアジアの子どもたちが「共に育ち合う」と言う理念への発展です。

アジアの山岳僻村へ通い始めて６年。AEFA も多くのことを学んできました。又、日本の小中学校 60 校との付き合いを経て、子どもたちの変化や先生方の熱意を目の当たりにして、多くの示唆を頂いてきました。

「アジアの元気」「勉強への熱意」「健気な生命力」を伝えようとする国際交流でしたが、実際には、子どもたちに共通する「温かい無垢な心」との出会いがあり、「日本の子どもたちの元気」の存在を再認識して安心する６年間でもありました。

そして今、「学校を育てる」という理念への進化に挑戦することを誓いたいと思います。

ラオスの山奥に５年前に創った学校に、１年生として入学した子どもたちが卒業する。なんとしても彼らが中学校へ通えるようにと、昨年２教室の小規模ながら中学校を建設しました。中学校に通うことが夢の夢だった子どもたちが、その学校で勉強しています。教科書も文具も足りない。そんな悪環境の中で頑張っている子どもたちを見ると、勇気付けられます。

新しい挑戦･･･それは教師の補充支援や養成支援。教材供給、中等教育奨学金制度の立ち上げ、学校菜園・水田導入など資金創出プログラムの立ち上げ、などです。課題は山積していますが、果敢に挑戦したいと思います。

また、今年度末には 100 校が完成します。この記念すべき 100 校目を子どもたちだけの資金で創る「ワンコイン・スクール」の２校目にしたいものです。

“さまざまなご支援、ありがとうございます”

ＡＥＦＡの活動に対するご支援はさまざまな形で広がっています。設立5年間で学校建設、インフラ、ソフト、交流など50数件、金額では日本財団以外で総額7,000万円を超えています。最近1年余のご支援を紹介いたします。

●ご支援一覧（2009.1 ～ 2010.3）

支援者		支援先・内容	
Ⅰ. 学校建設支援	英国国立ウェールズ大学経営大学院(MBA)12期様	ラオス　サボン小学校	3教室・教員室・WC（一部支援）
	アジアの子供たちに学校をつくる議員の会様	ベトナム　フートューC小学校	5教室・教員室・WC
	「アーク　-青い地球の子どもたち-」様	ベトナム　ダクハ小コンピア分校 ポコ小トゥゾップ1分校	4教室・WC・井戸 3教室・WC・井戸（一部支援）
	石原　拓一郎様	ラオス　学校	
	津北ロータリークラブ様	ラオス　ナトゥム小学校	3教室・教員室・WC　（一部支援）
	仙台市立広瀬小・愛子小　と　日本の子どもたち	ラオス　ポンタン小学校	6教室・教員室・WC（一部支援）
	独立行政法人郵便貯金・簡易生命保険管理機構様	ラオス　パチュドン中学校	2教室+先生の家（一部支援）
	大阪コミュニティ財団「がっこう基金」様	タイ　ナンプア小学校	3教室・WC・改修
	「夢の貯金箱」及び長谷部晃様・木村敬道様　他		
	株式会社やすらぎの部屋様	ラオス　ピアラー小学校	3教室・教員室（一部支援）
	株式会社サンキューホールディングス様	ベトナム　ホアバック小ジアンビ分校	4教室・WC・井戸
	株式会社サンキューホールディングス様	ラオス　ノンヤオ中学校	
	ろくさん基金　～　六川家のみなさま	ラオス	
Ⅱ. インフラ支援	グレンチェック株式会社様	ラオス	井戸
	株式会社エスエス・ファシリティーズ様	ラオス　ピアラー小学校	井戸
	有限会社Great DaiLee（ｸﾞﾚｰﾄﾀﾞｲﾘｰ）様とお客様	ラオス　ナトゥム小学校	井戸
	株式会社ブロードウェイ様	ベトナム　グエンユー小学校	井戸
Ⅲ. ソフト支援	橘幼稚園のおかあさんたち　みなさま	ラオス　パチュドン小中学校	先生の給与
	小林　宏　様	ラオス　イルン小学校	先生の給与
	株式会社ブロードウェイ様	ラオス　ノントゥム小学校	先生の給与・教材
	株式会社近江兄弟社様	ラオス　パチュドン小中学校	民家風女子寮
	グレンチェック株式会社様	ラオス　ジョーハイ分校	机・いす
	花王　ハートポケット倶楽部様	ラオス　ナトゥム小学校	机・いす
	株式会社ブロードウェイ様	ベトナム　グエンユー小学校	通学用ﾎﾞｰﾄ・ﾗｲﾌｼﾞｬｹｯﾄ
Ⅳ. 交流等	会員各位からの寄付金	フレンドシップ交流資金に充当	

2009年度は日本財団よりベトナムで14校（44教室―教員室含む、トイレ13、井戸４）のご支援を頂きました。

ボランティアのみなさん

いつもありがとうございます。

安藤　直美　　小島　正好
岡本　葵　　澤村　範子
鬼形　まり　　GYPSY　QUEEN
小原　智子　　中村　亜友美
加藤　祐子　　中森　朋子
菊地　良一　　村山　希
工藤　卓二　　モニカ・パロマ
熊木　満喜　　横瀬　定且
小垣外明子　　吉田　さくら

友の会新会員のご紹介

新しく入会されたみなさんです。
ありがとうございました。(敬称略)

＜個人会員＞

池田　竜男／熊木　満喜／伊村　真智子
河合　直子／木下　良和／山田　昌功
豊田　基嗣／宍戸　仙助／福島　斉
伊村　元範／中井　康夫／高橋　満
坂口　憲一／小湊　格／上西　裕子
田儀　雅芳／吉田　和夫
宮本　昌郎／蒲原　啓二
西村　龍一郎

＜法人会員＞

株式会社システムソリューション
有限会社　Great DaiLee
西端プロー工業株式会社
デジタルメディア研究所
新日本有限責任監査法人

友の会にご参加を

アジア教育友好協会では、アジアの子ども達に対する教育支援や、日本の子ども達との国際交流を支援してくださる会員の方を募集しています。

会費
- 個人　5,000円(年間)
- 法人　30,000円(年間)

【お問い合わせはこちらへ】
TEL:03－6426－0720

私たちは各国のパートナーNGOと手を携えて活動しています。

《パートナーNGO》
ラオス：Village Focus International / Laos
ベトナム：Health and Education Volunteers
Saigon Children’s Charity
タイ：Raks Thai Foundation / Care Thailand
中国：日本・雲南聯誼協会

認定NPO法人 アジア教育友好協会 AEFA（アエファ）
Asian Education and Friendship Association
本　部：〒105-0014 東京都港区芝3-3-10　芝園オーシャンビル8階
TEL 03(6426)0720 / FAX 03(6426)0721
Email：tokyo@nippon-aefa.org　URL：http://www.nippon-aefa.org　ブログ：http://blog.canpan.info/aefa/

日本財団 The Nippon Foundation 助成事業